

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 2670700349 | | |
| 法人名 | ユニマツリタイアメントコミュニティ | | |
| 事業所名 | 嵯峨野ケアセンターそよ風 1F | | |
| 所在地 | 京都市右京区嵯峨釈迦堂藤ノ木町19-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和2年1月16日 | 評価結果市町村受理日 | 令和2年5月7日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyvoCd=2670700349-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ | | |
| 所在地 | 京都府京都市北区紫野上門前町2-1 | | |
| 訪問調査日 | 令和2年2月5日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当センターは京都嵐山からやや北にあがった、自然に囲まれた風情のある静かな地域に位置しています。平成14年12月開設。館内の床は張り替えを行い、照明もLED化。15年の歴史と新しい雰囲気を持った施設です。利用者様がゆっくりと穏やかに過ごせるよう、その人の持つておられる能力を考慮し、手助けを必要とする部分を支援することを心がけています。また、清涼寺で行われるお松明、五山の送り火鑑賞会、嵯峨祭の見学、京都マラソン見学といった季節にあったイベントから、定期開催のバイオリン演奏会やハーモニカ・ウクレレコンサート、音楽療法といった数々のイベント楽しんでいただく事ができます。理念である「穏やかで安らぎのある暮らし」「心遣いや気配りの生活」「ゆったりと自由な時間」「地域と生きる私たち」ことを恥じないように支援していきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は嵯峨嵐山という観光名所にあり、自然に恵まれ、リビングや居室の窓からは山々が見え、夏には五山の送り火など、季節の移ろいを感じられる事業所です。事業所理念に「地域と生きる私たち」を掲げている通り、地域の自治会へ加入し保健委員を担い献血運動に参加したり、地域のお祭りを手伝ったり敬老会への参加など地域のイベントに積極的に参加しています。また地域住民の方にボランティアとしてピアノ演奏・ハフイアンコンサートなどに来ていただき、地域との密接な関係性が築けています。また事業所の外周は散歩ができるようになっており、玄関にはベンチが設置され、日常的に外気浴ができる環境となっています。毎月開催されるさまざまなイベントでの入居者の様子は、月1回発行される広報誌「そよ風だより」により家族へも伝えられ、より日常の様子がわかりやすくなるような工夫がされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果(1F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「地域と生きる私達」という事業所理念を毎朝読み上げ、それに沿って実践に繋げている。 | 法人理念・事業所理念を事務所内に掲示しており、毎日の朝礼にてセンター長・各ユニットの早出職員が事業所理念「地域と生きる私達」を唱和しています。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 近所の方がボランティアにいられたり、敬老会に参加させてもらったりしている。自治会にも入っており回覧板がまわってくる。 | 地域の方によるボランティアとしてピアノ演奏・ハワイアンコンサートなどを受け入れています。また自治会に加入しており、管理者が保健委員として協力し、献血運動や地域のお祭りの手伝いをしています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 定期的に開かれる。地域包括会議に参加している。 | / | / |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 定期的にはひらかれており、運営推進会議に参加しており、地域との情報交換にも繋がっている。 | 地域包括・民生委員・自治会長などの参加により2ヶ月毎の第3金曜日に運営推進会議を開催し、イベント報告や入退居状況・事故報告などを行っています。また12月には会議後に食事会を行い、入居者の食事がどのようなものか知っていただく機会としています。 | 2ヶ月毎に開催される運営推進会議への家族参加が得られにくい状況となっています。開催の曜日や時間の見直し、また会議までに家族への意見聴取などをしてはいかがでしょうか。さらに運営推進会議議事録は家族へ配布されることが望ましいです。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | コミュニケーションをとるよう努め、実践して連携が出来ていると思う。 | 運営推進会議議事録や消防訓練実施報告書などは行政窓口へ直接持参しています。また地域連絡会・地域ケア会議へも参加しています。さらに行政主催の研修などにも可能な限り参加しています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束廃止の研修を定期的に行い、全職員が受講し、研修報告書として提出している。 | 月1回、センター長・管理者・各ユニットリーダーで構成される「身体拘束適正化・虐待防止検討委員会」を行い、事例検討など話し合いを行っています。また年2回身体拘束・虐待防止研修を行っていることが年間研修計画や研修報告から確認できました。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 毎月、虐待防止の学習を行っており、虐待をしないという意識を常に持っている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 毎月、権利擁護に関する制度の理解と活用に取り組んでいるが、成年後見人制度については十分な、機会が設けられているとは言えない。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | センター長、管理者が行っている。不明点やご家族様に尋ねられた場合、すぐに相談が出来るような体制になっている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 代表者が、すぐに話を聞ける体制になっており、意見や要望は、職員間で共有され運営に反映させることが出来ている。 | 事業所玄関に意見箱は設置されていますが、今までに利用されたことはほとんどないようです。面会時に家族から聴き取った意見などについては、申し送りノートへの記載や、朝礼で報告することにより職員間で情報共有しています。 | 積極的に家族からの意見を収集しようとする姿勢は見受けられますが、家族は遠慮気味になるという事を前提に、意見を言いやすい環境作りや事業所独自の入居者アンケートを行うなど、さらなる工夫が求められます。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 代表者や管理者は、常に各ユニットの状態を気にかけ、全職員が意見を出しやすい、環境作りがなされている。 | センター長や管理者が現場で直接かかわることにより、職員の意見要望が言いやすい環境となっています。職員から出た意見により、シャワーチェアや、滑り止めテープなどを購入するなどに繋がっています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 昨年は個別に面談がなかった。個別に面談もあると良いと感じる。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 現在の状況下で、出来る限りのことは出来ていると感じる。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 全職員ではないが、正職員を主体にしてネットワーク作りはなされている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に必ずご本人様と個人面談し、要望等聞いている。その情報をもとに、普段のサービスを行っている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族様とも、事前に必ず面談を行っている。常に良好な関係でいられるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 事前に思いや要望を把握し、必要ならば自サービス以外も含め、利用者様第一で考えている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者様が出来ない部分を、介護させていただくことで、共同生活という関係作りができるように努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族様により、来所頻度に違いはあるが、共に協力してご本人を支えていくことが出来ているご家族様もある。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 友人が面会に来られる方や、家族様と一緒に馴染みの場所へ出かける方もいる。 | 家族協力のもと、以前からの馴染みの美容室や、墓参りに出かけられる方には、出かけやすいように準備を支援しています。また家族や知人へ年賀状を書かれる方や、自分が卒業した小学校で開催される敬老会に参加される方もおられます。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者様、それぞれの性格を把握し、穏やかに過ごせるよう配慮は行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所後も、連絡を下さるご家族様もおられる。イベントにも参加して下さる、ご家族様もおられる。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 常に声かけを行う中で、思いや希望の把握に努め、参考にしながら決して押しつけないように希望に沿って接している。 | 入居者の意向確認は、日常のかかわりの中で把握するように努めています。家族へは面会時や電話にて確認するようにしています。また改めてケアプランの説明の際にも再度、意向要望の聞き取りを行うようにしています。 | ケアマネジャーは本人や家族から思いや意向の把握に努めていますが、記載は申し送りノートではなく、「本人・家族の意向要望シート」などを作成し、正式な記録とされることが望まれます。 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前にご家族様や、ご本人様、ケアマネとの面談を情報を聞き、シートを作成して職員間で共有している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎月の会議やアセスメント、日々の記録を通じ、一人一人の能力や生活の様子、個性を把握しそれぞれに合わせたケアを行っている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | カンファレンスを行い、現状の把握や要望の確認を取り、新たなケアプランを作成し実行している。 | 計画作成担当者やケアマネジャーが入居者・家族へ意向や要望を確認し、多職種間から得られた情報をもとにユニット会議でカンファレンスを行い、ケアプランを立案しています。モニタリングはケアプランの見直しの都度行っています。現在、記録については電子化への移行中です。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | iPadでの記録や、申し送りノートを通じ全職員が常に、情報共有が出来るよう努めている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 一人一人が必要としているサービスが、出来るよう柔軟な対応ができています。本人の意思を尊重し、押しつけないサービスを心掛けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 何が聞きたいのか読み取れない。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | センターと提携している医療機関にて、適切な医療を受けている。また、かかりつけ医がある方は継続して診てもらっている。 | 入居契約時にかかりつけ医を継続するか、主治医を変更するかについての説明を行っています。往診は、2箇所の協力病院より2週間に一度来ていただいています。また専門医の往診も受け入れており、必要な時に適切な医療が受けられるようにしています。医療連携体制加算により訪問看護師との24時間連携も確保されています。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 常勤看護師はいないが、24時間体制で相談できる看護師がおり、週に1回訪問診察してもらっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時、病院、ご家族様へ情報提供し、治療内容や経過の把握を、常に出来るような関係が作れている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | センターが出来ることと、ご家族様が望むことを何度も話し合い、対応の方針を定めている。実際に看取りも行っている。 | 重度化・看取りについての対応の指針が協力病院ごとに作成されており、入居契約時に説明を行っています。今年度は2件の看取りを行っています。年1回、看取りについての研修を行っていることが年間研修計画書や研修報告書により確認できました。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 事故が起これば、報告書にて共有、緊急対応マニュアルやAED使用の研修等で、適切に対応出来るような体制づくりをしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 地域の消防署の立会いのもと、消防訓練を定期的に行っているが、全職員が参加出来ている状態ではない。 | 消防訓練は年2回のうち1回を夜間想定で実施し、消火器訓練の他に風水害訓練を実施しています。また地域の消防訓練にも積極的に参加しています。さらに事業所には3日分の備蓄食が確保されています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 研修は定期的に行われており、個人を尊重したサービスを心掛けるようにはしている。 | プライバシーについての研修を年1回開催し、職員へ周知を図っています。参加できなかった職員へは資料を配布し、全員が研修報告書を提出できるようにしています。また気になるような場面があれば注意指導できるような体制となるよう努めています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ご本人の好みや、気持ちが表現出来るよう、選択肢を設ける等して、自己決定できるように働きかけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 職員側の都合を優先してしまう時もあるが、一人一人の生活スタイルを尊重したサービスを行うよう努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご本人が、着たい服を選んだり、ヘアセットを行ったりしている。鏡が車イスの方にも見える位置にあると思う。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | かなり限られているが、出来る範囲内でご利用者様には行ってもらっている。イベント時には力を入れ、食事が楽しめるように常に努めている。 | 週3回スーパーから食材が届き、その日の各ユニットの職員がこれらの食材からメニューを考え食事を作っています。入居者は盛り付け・食器洗い・食器拭きなど、できることを手伝っています。また各人にあわせた食事形態(きざみ食・ムース食)で提供しています。事業所敷地内にある農園で育てたみかんやレモン、また地域の方や家族からいただいた野菜を食事に使用することもあります。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | Drの指示も含め、実施している。必要に応じてキザミ食やムース食にも対応している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後の口腔ケアを行っている。歯科医が月二回、往診に来られている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 電子記録での表示により、リズム把握が難しくなっているが、個別の状態に合わせ対応している。 | 日中は可能な限りトイレで排泄できるように声をかけ誘導しています。また自然に排便を促せるように食物繊維の多い食材や納豆、ヨーグルトを使用し、工夫をしています。毎日、ラジオ体操で体を動かすことを日課にしているユニットもあります。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 日々の食事や水分摂取による、自然排出を心掛けているが、薬でのコントロールもしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 現状では、施設で決めた時間帯でしか入浴することが出来ない。その中で楽しい気分になれるよう、入浴剤をいれたり、声かけ等で工夫を行っている。 | 曜日などは特に固定せず、週2回13時から16時でお一人ずつお湯を交換して入浴しています。同性介助となるよう可能な限り配慮しています。入居者が希望すれば入浴剤やゆず湯などで入浴を楽しんでいただいています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個人のスタイルに合わせて、自由に休息できている。夜間の電気の明るさも調整できる。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の説明書をファイリングしており、変更があった際には、即時情報共有できる体制になっている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 能力ごとに、出来ることへの参加や働きかけを行っている。外部よりボランティアにも来ていただき、楽しみごとを広げている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 職員不足により、日々の散歩等の外出は減っているが、地域の交流会やお祭りに参加したり、できる限りの努力はしている。 | 事業所敷地内にある農園や近くの寺まで散歩したり、敷地内を1周したりするなど、気分転換を図っています。また玄関先にはベンチが設置されており、外気浴ができる環境となっています。さらに地域で開催される嵯峨まつりや地域の敬老会行事には参加できるようにしています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭管理は施設で行っているが、本等を購入したい方の希望には沿っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 要望があれば沿うようにはしているが、現状では希望される方はいない。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 館内の窓は広く、開放感があり、自然に囲まれた景観を楽しむことができる。毎月、季節に合った飾りつけを行っている。 | リビングの窓は大きく自然の景色が見えるようになっており、窓からの明かりが差し込むようになっています。各居室の表札には名前の下に季節の絵が飾られています。また玄関や廊下には入居者と職員が作成した季節ごとの貼り絵が飾られるなど、季節を感じられる工夫がされています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テーブル席は指定席になっていて、場所の工夫を行っている。リビングには、他にもソファを設けており、一人でのプライベートな空間・時間も取れるよう配慮している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 長年、使用されてきた家具を居室に配置したり、使い慣れた物を置く等、過ごしやすい部屋作りに努めている。 | 入居面談時にセンター長や管理者から馴染みの家具などを持ってきていただけるよう説明しています。居室には使い慣れた家具や家族の写真、仏壇などが置かれており、一人ひとりが心穏やかに過ごせるような工夫がされています。また居室には大きなクローゼットも設置され空間を広く使えるような工夫がされています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 安全第一に考え、ご利用者様の能力に合わせた環境整備を行っている。物の配置等、それぞれに合わせている。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 2670700349 | | |
| 法人名 | ユニマツリタイアメントコミュニティ | | |
| 事業所名 | 嵯峨野ケアセンターそよ風 2F | | |
| 所在地 | 京都市右京区嵯峨釈迦堂藤ノ木町19-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和2年1月18日 | 評価結果市町村受理日 | 令和2年5月7日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2670700349-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-----------------------|
| 評価機関名 | NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ |
| 所在地 | 京都府京都市北区紫野上門前町2-1 |
| 訪問調査日 | 令和2年2月5日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当センターは、自然に囲まれた風光明媚な土地柄にあります。その土地柄を活かした、嵯峨野での最大イベント五山の送り火鑑賞会があり、毎年多くの方が参加していただいております。また、歴史的伝統のある行事が近隣であり(嵯峨祭、京都三大火祭等)見学をさせていただきながら、利用者様、職員共に楽しんでおります。館内においては、「和」を基調とした、落ち着いた空間な作りになっています。食事は、冷凍のものを使用せず、食材にもこだわり、手作りの物を提供しています。オープン当初よりこの形を踏襲しています。医療機関との連携も手厚い環境でもあり、センターでの終末期対応もを行っている。職員は常に利用者様、家族様の気持ちを汲み、考え一人でも多くの方が、安心して笑顔の絶えないセンターになっていけるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1Fに同じ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果(2F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|-------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 朝礼時に、センターの理念を唱和することで、理念の確認と意識の共有化を行っています。穏やかに過ごせるようどう援助をしていくかという援助の基本にしています。 | 1Fに同じ | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会に参加し、地域とのつながりを持つことで、地域の敬老会やお祭りなどのイベントにもお誘いをいただいています。また、センター発行の新聞を回覧し、センターを知っていただく取り組みも行っています。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議において、地域の方にも参加していただいています。その中で、認知症や介護に関することなどの質疑応答の時間を設け、認知症の理解や支援方法など、知っていただけるよう努めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 外部評価や家族アンケートの結果報告、イベント活動や事故などの報告等きっちり行っています。その中で様々な意見をいただくことで、サービスの向上につなげています。また、家族様への報告も行っています。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市町村担当者へ、定期的に報告を行っている。地域ケア会議、区のケアマネ連絡会やサービス事業者連絡会等、地域の会合に積極的に参加し協力関係の構築に日々努めています。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会を毎月実施している。研修も行い、日頃、支援をしていく中で、知らないうちに身体拘束・虐待を行っていないか話し合いをしている。またスピーチロックに関しても、重点に話し合いをしています。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 毎月、虐待防止会議を行い、議事録の配布をしています。また、虐待等に関連するニュース・事例があれば、回覧を配布を行い、虐待に対する意識や知識を、常に持ってもらう環境作りに努めています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 制度についてある程度理解している職員もいますが、成年後見制度の勉強会は、事業所では現在開催されておらず、理解が十分とは言えない。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の締結や解約、改定等の場合には、利用者様や家族様にお時間をいただき、説明を行っています。その上でご理解、了承のうえ、同意をいただいています。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 年に数回、家族会を実施しています。またアンケートも実施し、家族様の意向をお聞きできるようにしています。面会の時に、意見や要望を直接お聞きできる機会も設け、お聞きした事は申し送りノートに記載し職員で共有し、反映できるように努めています。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月に一度、フロアミーティングと全体会議があり、その場にセンター長、管理者が参加し、運営の報告や意見交換を行う時間としています。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員はセンター長・管理者を含め二十数名であり、各職員の実績、勤務状況など十分に把握することができます。その上で定期的に面談を行い、働きやすい環境整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 会社内の研修を受ける機会を設けられています。全体会議でもテーマを決め、研修を行いスキルアップにつなげています。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 協議会があり、各施設との情報共有を行いながら、フィードバックしサービスの質の向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に本人と面談を行い、どのようなサービスを希望されているか家族様含めお聞きし、施設が提供できるサービスについても説明し、信頼関係の構築に努めています。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 見学や問い合わせなど、サービス利用を考えておられる時点から、十分な説明や要望の確認を行い、信頼関係をある程度築いた上でサービスを開始できるよう努めています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ケアマネと相談したり、家族様、本人と面談を行い、今どのようなサービスを利用される事が良いのかを本人の現状を把握したうえで支援をおこなっています。場合により、他のサービス利用をお勧めする事もあります。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | アセスメントを行った上でご利用者の必要とする部分について、職員は支援を行うようにしています。生活の中で、馴染んでいることや得意なことを活かしながら、暮らしに寄り添う関係を大切にしています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 利用者様の現状について、家族様に連絡を行い、可能な範囲で家族様のご協力をいただいています。日頃の生活を見ていただける機会としてイベントなどにもお誘いし、共に支えあえる時間を共有できるように支援しています。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 親戚やご友人の方が面会に来て下さった際には、利用者様と一緒に気持ち良く過ごして頂けるよう配慮を行い、また来て下さりやすいよう雰囲気作りをおこなっています。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者様同士の関係を把握し、関係に支障がある場合には、職員が間に入る等配慮しながら利用者様が、円滑に共同生活が出来るよう援助をおこなっています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス利用終了後も、必要に応じて相談や支援ができるように努めています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の生活の中で利用者様、家族様の希望や意向の把握に努めています。得られた情報については、申し送りノート等で職員間で共有、意見交換を行っています。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族様、本人様、ケアマネ等連絡をとり、サービスの利用前より情報の取得に努めています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個々の利用者様の生活ペースを理解し、把握して職員ペースにならないように努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 日常生活のご様子から、モニタリングを行い、職員と共有している。また、その中で必要に応じて家族様にもカンファレンスに参加していただき、話し合いを行い、それを反映させて介護計画の作成を行っています。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 職員は各種記録や申し送りノートを活用し、情報の共有を行っています。利用者様に大きな変化があれば、介護計画内容の見直しを行っています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 提携病院、訪問看護ステーションや鍼灸マッサージ、イベントボランティアなど、施設が提供するサービスだけでなく、他のサービスも本人や家族様の希望に応じ連携をとり、利用者の生活の質の向上につなげています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地区社協、地域包括、ご近所の皆さん、ボランティアの皆さんなど様々な方に協力いただきながら、地域行事にも参加させていただいています。利用者様が穏やかな暮らしを過ごせるよう支援しています。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 事業所が提携している病院で、医療支援を受けられます。また、今までのかかりつけ医を希望される方がおられましたら、入居後も継続して診察はできるようにしています。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 協力病院の他に、訪問看護ステーションの看護師と連携がとれており、週1回訪問していただき、日常の様子などを報告している。また、迅速な対応が出来るよう、24時間相談できる体制が整っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 今までの医療の経過が蓄積されており、本人様、家族様の要望を理解した、医療がうけられるようになっています。入院中は、職員がお見舞いに行き、経過状況を確認している。病院、センター、家族様とで面談を行い、早期退院に向けた取り組みにも努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合の指針について、家族様に説明し、同意書をいただいています。また、状況変化時はご家族様の意向を再度確認し、医師との連携を取りながら、終末期についての話し合いの場を設けている。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時のマニュアルを整備し、緊急対応ができるよう努めている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的に避難訓練や消防訓練を行っています。訓練では、ご利用様にも参加していただくこともあります。また、食品としては備蓄品を倉庫に保管をしています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの尊厳を大切にし、接していません。適切な言葉遣いと対応に努めている。研修なども行っています。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常生活の会話や行動、表情などから思いをくみ取り、自己決定を導きだせる支援に努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 希望を聞く、推し量る、表情から読み取る等して希望に添えるよう支援している。外出など、希望に添えていない部分もあるので、より良くしていきたい。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 服を選んでいただく機会や、選べない方は職員が、その方にあった服を、コーディネートするなどの支援をしています。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 重度のご利用者様が増え、一緒に料理作りをするというのが難しくなっているのが現状です。食事を楽しんでいただく観点として、色彩や匂い、その時に召し上がられたい物や、季節感がある物など考慮し献立を行っています。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 医師の判断に基づき、各人にあわせ水分量、食事形態、栄養バランス等注意し食事を提供しています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 起床時、就寝前には口腔内清掃を行っている。月に2回、歯科往診も受けながら口腔内の点検、清潔保持を行っています。また、口腔衛生管理体制加算を実施し、歯科医から口腔ケアに係る技術的な助言及び指導を受けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 24時間記録することで一人ひとりの傾向を把握し、個々に合わせた排泄ケアを行っています。適切に誘導や交換をすることで、おむつの使用を減らすとともに不快な時間の削減、清潔な状態の維持につなげています。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便状況の記録行っており、便秘傾向のある方には水分量、牛乳やヨーグルト、繊維質など、自然排便をうながす取組をおこなっています。必要に応じ、下剤の使用も行っています。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴の時間帯は、午後からの入浴になっています。その中でも、ゆっくり入浴されたい方など、時間帯を考慮して、リラックスして楽しんでいただける時間を提供させていただいています。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個人の生活リズムを把握しており、その時々利用者様の様子を考慮し、居室やソファ等でゆっくりとしていただける、環境を作っています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 医師・薬剤師より、個々に服用している薬の説明をうけとっており、薬の目的や用法、副作用については概ね理解できています。要観察し変化などあれば報告している。誤薬などないよう、与薬・セット時は2重チェックを行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個々の嗜好について把握しており、各利用者様が日常生活を楽しんだり、活躍できるよう支援に努めている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 日常的な外出支援は、重度化により難しくなっている現状がありますが、花見、祇園祭見学や紅葉など季節折々の際には、利用者様に楽しんで満足していただけるようドライブや散歩などの外出行っています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 個人の能力に応じて金銭を所持していただく事は可能ですが、実際に使っていただく場面は少なく、センターでの管理となっている。外出の際に小遣いを、もっていってもらうなど、今後工夫をしたいと考えている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 利用者様の能力に応じて電話や手紙を出したりする事を職員も支援を行っています。届いた手紙に返信される方もあります。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 障子や格子戸など、館内は和風のゆったりした雰囲気となっています。壁には季節の飾りやご利用者様のイベント写真などもはり、利用者様が落ち着いて過ごしていただけるよう工夫しています。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テーブルやソファを効率的に配置しており、少人数で仲の良い方とゆっくりしたり、また、テーブルを動かせば大人数でイベントを行う事もできるよう、工夫されています。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居説明の際より、施設の部屋は利用者様の自室である事を伝え、出来るだけ使い慣れた馴染みのある家具を持ち、雰囲気作りをしてくださるよう、お願いしており、職員も安全に配慮の上、お手伝いをしています。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 利用者様が分かりやすいよう、表札やトイレの案内をつけています。また、手すりも各所に設置し、利用者様が持っておられる力を使い、生活しやすく安全に生活が出来るように工夫している。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 2670700349 | | |
| 法人名 | ユニマツリタイアメントコミュニティ | | |
| 事業所名 | 嵯峨野ケアセンターそよ風 3F | | |
| 所在地 | 京都市右京区嵯峨釈迦堂藤ノ木町19-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和2年1月10日 | 評価結果市町村受理日 | 令和2年5月7日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2670700349-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-----------------------|
| 評価機関名 | NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ |
| 所在地 | 京都府京都市北区紫野上門前町2-1 |
| 訪問調査日 | 令和2年2月5日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当センターは京都嵐山からやや北にあがった、自然に囲まれた風情のある静かな地域に位置しています。利用者様がゆっくりと穏やかに過ごせるよう、その人の持っておられる能力を考慮し、手助けを必要とする部分を支援することを心がけています。また、清涼寺で行われるお松明、五山の送り火鑑賞会、嵯峨祭の見学、京都マラソン見学といった季節にあったイベントから、定期開催のバイオリン演奏会やハーモニカ・ウクレレコンサート、音楽療法といった数々のイベントがセンターで過ごされる利用者様の日常生活に楽しみをプラスしており、職員も共に楽しんでます。センターの理念である、「穏やかで安らぎのある暮らし、心遣いや気配りのある生活、ゆったりと自由な時間、地域と生きる私たち」という理念を大切に、利用者様の生活のお手伝いをしていきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1Fに同じ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果(3F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|-------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 朝礼にて毎朝、理念を唱和し、共有している。 | 1Fに同じ | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | そよ風便りを月に1階地域へ向け、発行している。発行ペースと内容を以前より充実させています。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 家族会を設け、実際にセンターで起きた事例や、認知症の勉強会を開いている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 施設の行事、事故、課題等を報告・相談させて頂き、他施設の立場や地域の方からの視点で意見を頂き、サービス向上に活かしている。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 地域ケア会議に参加したり、役所に事故の報告書を直接届けたり、ケアマネ連絡会に参加したりして、協力関係を築くよう取り組んでいる。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束を目的とした行為はしていない。玄関は防犯上オートロックとしている。ユニットの入り口に手動の鍵を掛けることがあったが、徐々にその時間を少なくし、現在は施錠しないようになった。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 全体会議で学ぶ機会を設けている。互いに注意し合えるよう、職員同士の関係を良くし、風通しの良い雰囲気作りに努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 全体会議で学ぶ機会を設けている。まだ十分とは言えないため、さらに職員の知識を増やしていきたい。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入退居時に面談をし、不安や疑問点なども伺い説明をさせて頂き、理解して頂けるよう努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時のご意見を職員・管理者で共有し、運営に反映させている。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | センター内では毎月の全体会議や日々の業務の合間に、よく意見交換がなされており、全体に通じる提案などは全体会議で議題にしている。センターと会社は事業部を経て相互に意見話し合いをしている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 人員補充など職場環境の整備に向けて努力している。会社としてもリフレッシュ休暇を導入し環境・条件の整備に努めているが、十分に活かしていない部分もある。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内外の研修を受ける機会を設けているが全員が対象ではないので、事業所独自で全体会議の場でも研修を行っている。他、ユニット内でチームとして新人を育てていく環境を整えたり、個人的にも研修に参加できるよう案内している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 管理者研修やグループホーム協議会を開き、各事業所間での研修・意見交換の機会が増えた。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前の実調面談にてご本人とお会いし、思いに耳を傾けている。入居後もご本人からよくお話をお聞きし少しでも不安を和らげるよう職員間で情報を共有しご本人の安心に繋げるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前に実調面談を行い、要望等を伺いお応えできるようにしている。入居後も要望等は常に聞きだすようにしている。言葉で頂かなくても、どう思っておられるか、何か不安なことはないか、察するようにして、良好な関係づくりに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居を検討された経緯、何が一番困っているのか、何が一番不安なのか、等を聞き取り、最善の支援ができるようにしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 共に家事をしたり、一緒にお茶を頂いたり会話したりしながら、一日を過ごして頂いている。できることはして頂いて、できるだけ自分で決められるように支援している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 小さな事であってもご本人の様子や変化をお伝えし、認知症についての助言もしている。文化祭やイベントにお招きし、実際にご本人のそよ風での姿・表情を見て頂いて、信頼関係を築いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | お手紙やお届け物などがあった際にはお礼の電話で直接お話できるよう支援している。ご家族やご友人など来訪された時には居室やリビングでゆくりとお話して頂けるよう心がけている。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者様同士の会話によく耳を傾け、関係を把握し、個々の性格を見極め、職員で意見を共有し、利用者様それぞれが本人らしさが出せるよう支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居後であってもイベントをお手伝い等参加して下さるご家族もおられる。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 常に把握に努めている。ご自身で思いを表すことが困難な場合が少なくないが、利用者様の様子や発せられた言葉などを記録に残し、カンファレンスで本人本位の視点から職員で話し合っている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前・入居後ともに、ご本人やご家族や以前の施設等から情報収集をし、また、入居後もご本人からお聞きしたことを職員間で共有し、ご本人らしい生活をして頂けるよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の一人ひとりの様子を、申し送りノートや個別の経過記録へ記載したり、口頭で申し送ったりすることで職員全員が把握できるようにしている。また、気になったことは「気づき」としてノートや口頭で共有している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 介護計画を作成する際に、職員でカンファレンスを行い、ご本人のしたい事は何か、その為に何を支援すべきか、ご家族の意向も含め話し合っている。今後はご家族のカンファレンスの参加機会が増やせるよう取り組みたい。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子や対応を記録し申し送り、情報共有している。職員は、気づきがあった時にその場の職員同士話し合いケアの工夫をしており、その方にとってのよりよいケアの実践と見直しを日々行っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 日々の業務フロー・ケアプランは決まっているがその日によって利用者様の状態が異なることも多いので、職員がその場で判断し臨機応変に対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域でのイベントへの参加、地域の他施設の利用、地域の店で買い物など、地域で楽しんで頂けるよう支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 提携病院と連携し、受診できる環境を整えている。かかりつけ医を希望されている方は受診を継続できるようにしている。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 提携病院の往診(隔週)や訪問看護(週1回)の際に随時相談し、指示を頂き対応している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 病院やご家族と連絡を取り情報交換を行っている。また退院後も病院側からサマリーを頂き、退院後の生活に支障のないようにしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時や早い段階からご家族に終末期について考えて頂くよう促したり話し合いの場を設けたりしている。また、提携病院とも話し合いの場を設け、医師、看護師、ご家族、場合によっては職員も含めて終末期のケア方針を共有している。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 全体会議で学ぶ機会があるが、不十分と言える。訓練を行うなど、実践力が見につくよう考えてきたい。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的に消防訓練を行っており、消防署の方にも来て頂いている。シフトの都合一度に全職員が参加できないため、身につけるために回数を増やしてほしいという意見もあり、考えていきたい。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 言葉遣い、接遇マナーについて全体で勉強会をしたり、チェックリストにて自己点検、それをユニット会議で確認し合ったりすることで共通意識を高めている。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | その方その方に応じて、決めていただく、選んでいただく、こちらが察知する、などして支援している。その方の表情などをよく観察して思いに添えているのか考えるようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者様お一人おひとりによって、またその日その時によっても、どのように過ごされたいか異なることを職員全員が理解し、希望にそった支援をするよう努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 服選び、化粧、整髪など支援している。月に一回訪問美容にて、ご本人のご希望に応じ、パーマ、カット、毛染めなどして頂いている。イベントとしてネイル体験ではマニキュアやネイルアートでおしゃれができる支援ができた。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 一人ひとりの好みや特徴など職員が把握しており、食べやすいような提供方法の工夫、季節を感じられる食材を取り入れる工夫などしている。できる方には盛付や配膳、片付けなどほぼ毎日して頂いている。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事の量や形態など一人ひとりに対応した提供方法をとっている。食事や水分が入りにくい場合は、お好きな物や摂りやすい物を一人ひとりの特徴に合わせて提供して栄養が確保できるよう支援している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 起床後と夕食後は全員行って頂けるように支援している。日中は口腔内に食べ物が溜まりやすい方などはその時々に応じて対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 適切なタイミングでのトイレ誘導やパット交換を行い、自立支援やパットの不快感の軽減に努めている。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | できるだけ食事(便秘の方にはヨーグルト・牛乳・納豆・繊維食材を積極的に摂って頂いている)や運動にて対応、次いで主治医に相談し内服での対応をしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | お一人あたり週2回程、時間帯は午後に設定させて頂いているが、その中では時間の制限はせず、ゆっくりくつろいで頂けるようにしている。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ご自分で入床・起床できる方についてはご本人の意思に合わせている。ご自分で表現できない方については表情や歩き方等からのサインを読み取り、お疲れの時は休んで頂くなど支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬剤情報を読み目的や副作用、用法や用量などについてよく認識するよう努めている。服薬時は十分な注意を払い、間違えないよう、日付や利用者様名を声に出して確認している。服薬後の様子は往診にて随時報告・確認できている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 文化祭などで利用者様を主役とした発表会を行ったりすることで、それに向けた練習で張り切っておられる姿があったりと、生き生きとした姿を引き出せるよう支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天気の良い日は散歩や外気浴をしているが、遠出や個別ではなかなか出かけられていない。ご家族と連携がうまく取れ、ご家族の支援で長めの散歩やドライブにお連れできた方もいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金は施設で管理している。施設のイベントや近所のお祭や個別レクなどで買い物する時にはご自分で買い物ができるよう支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | やりとりをされる際には電話の隣で見守りしたり年賀状の返事を書かれたりする際の支援をしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節の花をテーブルに飾ったり、季節の果物を収穫したり、各居室の表札に月替わりで変化をつけたりして、季節感を感じて頂けるようにしている。一人ひとりの生活に合った動線の確保や家具の配置なども工夫している。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テレビの前のソファでゆっくりされたり、仲の良い方同市でおしゃべりされたり、基本、皆様思い思いの場所でくつろいでおられる。必要な場合は、職員がフォローに入り、一人ひとりの居場所づくりの支援をしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 以前から使っておられた家具を継続して使っておられたり、思い出の品など飾っておられたり、馴染みのものを持ち込んで居心地良く過ごせるよう工夫している。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 今日の日付、今月の行事予定、場所の案内などを表示することでご自分で日付などを確認できる支援ができています。館内はバリアフリーで、引き戸になっており、安全に自立支援ができるようにしている。 | | |